源 流　第２２８号　教育長　儘田　文雄

# 学習指導要領改訂に向けた論点 8

## 学習評価の現状と育成すべき資質・能力を踏まえた今後の対応

### １　現状

❶　資質・能力の育成につながるよう学習評価の質を高めていくことは、教師の力量形成や授業改善に直結するものであり、**「指導と評価の一体化」**を一層進めることが重要。

❷　学習評価を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で行うこととした現行の観点別評価は、授業改善に重要な役割を果たすものである一方、特に「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、**「主体性」の意味**が具体的に整理されていないこともあり、依然としてノート提出の頻度などの「勤勉さ」の評価に留まっている学校もある。

❸　毎回の授業で３観点全てを見取らないといけないといった誤解により、評価材料を集めることのみを目的に毎時間振り返りを書かせるなど、**評価のための指導**に追われるいわゆる「指導の評価化」の状況が生まれるなど、教師・子供にとって息苦しくなっている場合もある。

❹　さらに、**見取り・形成的評価・総括的評価**が区別されず、学習評価の全てが総括的評価（評定の対象）として行われることにより、評価の結果が学習の改善に結び付きにくいという課題も指摘されている。

### ２　今後の対応

❶　こうした現状を踏まえた上で、教師の力量形成や授業改善に効果的で、子供の学習の改善に資するよう、**学習評価の観点や頻度**の在り方、また**形成的評価と総括的評価の効果的な使い分け**の在り方を検討すべき。

❷　特に「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、資質・能力としての「学びに向かう力、人間性等」の整理の状況を踏まえつつ、**子供がより主体性を発揮**できるようにする観点から検討すべき。

❸　各教科等の**目標・内容の構成の在り方**自体も、学習評価の効果的な実施の在り方と適切に連携が図れるよう、一体的に検討することが重要。

「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会　論点整理」（令和６年９月１８日）